

1 学校教育目標 豊かな心を培い、夢に向かって、主体的・創造的に活動する子どもの育成	2 本年度の重点目標 ①主体的に自分の考えを形成し、表現する力を育むための授業の工夫。 ②子どもたちの学習習慣の確立を図る。 ③子どもたちの考えが生かせる場面を設定し、主体的・創造的に活動できる力を育てる。 ④心の教育（一人一人を大切にすること）の深化と充実。 ⑤地域人材の活用、地域での体験活動の推進。 ⑥校内研究、教員研修の充実、勤務時間を意識した働き方改革。
--	---

達成度
A:ほぼ達成できた
B:概ね達成できている
C:一部達成できている
D:不十分である

3 目標・評価

①主体的に自分の考えを形成し、表現する力を育むための授業の工夫。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分 掌(部)	担当者	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	指導方法の改善・充実	・児童アンケート「自分の言葉を使って学習のまとめを書くことができる」の質問に対して、肯定的な回答をする児童の割合80%以上を目指す。	・「課題文へのマーキング」を徹底し、問われていることを正確に把握させる。 ・意見を整理するためのホワイトボードや図の活用、モデル文の提示、自分の考えを加除修正する時間の確保を通して、記述力を高めるための授業改善を図る。	学力向上 コーディネーター・教務主任		A	○児童アンケート「授業はよくわかりますか」の質問に肯定的な回答をする児童が96.6%であり、授業時間内での課題文へのマーキングを徹底し、問われていることを把握させる授業の効果が表れている。 ○自分の考えを加除修正する時間を確保したことで、児童アンケート「自分の言葉を使って学習のまとめを書くことができる」の質問に対し肯定的な回答をする高学年児童は93.8%であった。	○授業時間内での課題文へのマーキングは概ね定着しつつある。しかし、活用問題の読解は不十分であるので、マーキングしたことや条件、数量関係等を図に表現することを通して文意の理解、条件整理へつなげていく指導を継続していく。 ○学習のまとめを自分の言葉で書くときにとまどう児童がいるため、C/W後の教師の解説では、キーワードの確認・板書、書き出しのモデル文の提示を継続して支援していく。
		主体性を育む単元構成の設定	・発達段階に応じた児童司会授業を継続し、学習計画作りや課題解決のための話し合い活動に取り組ませる。	・児童の実態に合わせ、低・中・高学年用の「学習司会用シート」「話し合い技」(話型)についてのプリントを作成し、活用させる。	学力向上 コーディネーター・教務主任		B	○シートを活用し、学習計画づくり、打ち合わせ、学習司会による授業のサイクルを積み重ねることで、児童は主体的に学習に取り組むことができた。 ○児童アンケート「学習の時、発表はよくできていると思いますか。」「は79.5%であり、GW、CWの充実を目指していく。	○課題解決に向けてGW、CWでの話し合い力をつける。児童が進んで発表しようとする授業へ改善したい。そのために、話し合いに入る前の教師の観点の精選、話し合いを焦点化させる手立てを引き続き研究し、授業改善へつなげていく。
	●志を高める教育	校内研究である外国語活動や外国語の学習の時間を中心に、自らの夢や目標の実現に向かって、努力する気持ちを高める教育活動の推進	・自分を見つめたり、将来について考えたりする学習や異文化理解を深める学習を多く設定する。	・地域人材を活用した体験学習を充実させる。 ・毎月、外国の文化を知ったり、日本の文化を見つめ直したりする掲示を充実させる。	校内研究	研究主任・副主任	A	○児童アンケート「地域のひとと一緒に勉強することは楽しいですか」の質問に対して肯定的な回答をする児童は96.6%であり、体験を通して活動・学習していることに児童が満足していることがうかがえる。厳木町の歴史や文化を守る方の話を聞くことで地域を大切にしようとし、将来について考えることができた。	○児童玄関に季節の言葉の英語表現、階段に身近な昆虫や文房具などの英語表現を掲示した。また、2階ホールに外国の文化を知る書籍を置いた。児童は関心をもって見て、話題にしていた。異文化理解を深める環境整備を今後も継続していく。
		○外国語教育の充実	主体的に学び、積極的に表現できる児童の育成	・外国語活動における言語活動の充実を図る。 ・児童アンケート「言いたいことを工夫して伝えられますか」の項目において、80%以上の達成率を目指す。	校内研究	研究主任・副主任	A	○児童アンケート「言いたいことを工夫して伝えられますか」の質問に対し95.5%の児童が工夫して伝えられていると回答した。児童の実態に合わせて言語活動を工夫することで、知っている英語やジェスチャーを駆使し、自分の思いや考えをなんとか伝えようとする姿が見られた。理解し合う経験を積み重ね、英語を用いて伝え合うことに、自信をつけてきた。	○単元においては言語活動の工夫が難しいものもあった。児童が主体的に伝え合えるよう、今後も、児童の興味関心に合わせて、教材をアレンジし、言語活動の充実を図っていく。また、振り返りカードの評価項目を見直し、改善を図りながら、継続して活用していく。

②子どもたちの学習習慣の確立を図る。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分 掌(部)	担当者	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○基本的学習習慣の確立	家庭学習の充実	・全児童が「学年ごとに定められた家庭学習の時間」ができるようになることを目標に、取り組ませる。 ・3年生以上児童に、週末課題として算数科の発展学習に取り組ませる。	・「学習の手引き」を活用したり、学級通信等で家庭学習の啓発を図ったりして、保護者との連携を図る。 ・年二回の学習状況調査により、課題がある児童には個別に指導する。 ・3年生以上の児童には、自主学習や活用力を育む週末課題に取り組ませ、解法の方法を説明する記述力を高める。	学力向上 コーディネーター・教務主任		B	アンケート「家で勉強はできていますか」の項目に肯定的な回答をする児童は89.9%であった。 ○家庭訪問時や学級懇談会、授業通信等で家庭学習時間の確保と内容の充実について保護者啓発を図ったが、家庭学習の取り組み方には個人差が大きいため、保護者との連携を継続していく。 ○自主学習の取り組みの掲示や表彰は効果的であり、自主学習に工夫して取り組む児童が増えた。 ○単元テストでも達成が不十分な児童には個別指導を行い、再テストを実施した。	○家庭学習の充実に向け、家庭との情報共有を深めていく。 ○学力調査の結果から読解力の不足、文意の読解、条件整理が不十分であることが明らかになった。実態に応じて、2学期から週末課題では国語科と算数科の基礎問題、活用問題に取り組ませた。言葉の力をつける基礎問題に取り組ませることで読解力を育み、書き直しの徹底も継続していくことで学力向上につなげたい。
		生活習慣の徹底	・早寝・早起きを呼びかけ、生活リズムの定着を図る。 ・各学年の実態に応じた忘れ物や宿題等のチェック表を作り、日々の生活を振り返らせることで生活習慣の徹底を図る。	・育友会と連携をとり、生活アンケートの実施や保護者への啓発により、「早寝・早起き・朝ごはん」運動の普及と徹底を図っていく。 ・教師が毎日チェック表に目を通し、基本的な生活習慣が身に付くよう個別に指導する。	生活	生徒指導担当	B	○定期的に生活アンケートや毎日の生活がらばりチェック表に教師が目を通すことで、「早寝・早起き・朝ごはん」の励行を指導することができた。 ただ、早寝ができていない児童もややみられた。	○早寝・早起き・朝ごはんの大切さを保健や家庭科の授業と関連させながら学級指導の時間を使って指導する。 ○学年の実態に応じたチェック表を作成し、自分の生活をしっかりと振り返る手立てを取っていきたい。

③子ども達の考えが生かせる場面を設定し、主体的・創造的に活動できる力を育てる。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分 掌(部)	担当者	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○児童の主体的活動	主体的活動を通した自己教育力の育成	・児童の主体性・創造性を育む特別活動を推進する。 ・個性を伸ばす自主的な活動を推進する。 ・児童アンケート「自分の係や仕事をがんばっている」の達成率が90%以上を目指す。	・主な5つの学校行事や諸行事を実行委員会が計画・実施していくことで児童の主体性を育む。 ・委員会活動・クラブ活動・係活動では、集団への所属感を高めると同時に、子どもたちの考えが行かせる場面を設定し、自主的活動をうながす。	特活	特別活動担当(低・中・高)	A	○児童による実行委員会形式で取り組んだことにより、児童の活躍の機会が増え、主体的に取り組む児童の姿が多くなった。また、学校アンケートでは「学校での活動で自分の係や担当の仕事をがんばっていますか。」「で全校で97.7%の達成率であり、主体的な活動に取り組む児童の割合が高い。	○今後も行事等を児童による実行委員会形式で、児童の考えを活動に生かし、児童の活躍の機会を保障することで、主体的な活動を促していく。 ○児童司会授業を継続することで、自分達の考えを生かし、児童同士で主体的に学び合う姿勢を身に付けさせる。

④心の教育（一人一人を大切にすること）の深化と充実。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分 掌(部)	担当者	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●いじめの問題への対応	いじめのない楽しい学校 よりよい人間関係づくり	・互いに認め合い、支え合う学級集団及び全校的に良好な仲間づくりを推進する。 ・保護者・児童アンケート「学校が楽しい」の達成率が80%以上を目指す。	・月1回の生徒指導協議会や友だちアンケートにより、気になる児童について共通理解を図り、全職員で連携しながら対応する。また、特別支援の児童はもちろんのこころにのぞいておきたい子についても、個別の支援計画や指導計画を作成し見守る。 ・年1回(5月)に実施するQUTSの結果を全教職員で共有し、心にとめおく(児童)に対して学級担任以外の教職員も積極的に関わって支援体制を確立し実施する。 ・スクールカウンセラーの先生に全学年1時間ずつ心理授業をしていただくことで、よりよい人間関係づくりに役立てていく。	生徒指導	生徒指導部長・特別支援コーディネーター・教務主任	B	○友だちアンケートや保護者アンケートをとったことで児童の人間関係や困り感が分かり、早期の対応、支援に役立った。また、全職員で毎月1回の生徒指導協議会や臨時の会議で気になる児童についての情報共有し、連携しながら対応にあたることができた。 ○児童アンケート「学校が楽しい」の質問に肯定的な回答をする児童がほぼ90%となった。これは、児童同士の良好な仲間づくりができていた結果と考えられる。 ○Q-Uアンケートの結果を職員研修として全職員で分析し、自己肯定感を高める手立てについて協議し、共通理解する時間をつとめた。各担任は学級経営に生かし、級外もきめ細やかな声かけを行った。	○今後も定期的に友だちアンケート、保護者アンケートをとり、全職員で情報共有しながら早期対応をしていく。また、気になる子等については保護者との連絡を特に密にし、実態把握と個別の支援計画、指導計画を作成し、きめ細やかな支援へつなげていく。 ○縦割班での遊びや掃除などは全校的な良好な仲間づくりに役立っている。今後も継続していく。 ○全学年、スクールカウンセラーの先生による心理授業を通してよりよい人間関係づくりのための言葉かけなどに生かすことができる。児童の実態把握を基にスクールカウンセラーの先生と連携し、今後も継続していく。
		●心の教育	豊かな心の充実 道徳教育の充実	・道徳の時間及び人権・同和教育の時間を中心として、自己理解・他者理解の充実を図り、全校で道徳教育の推進に努める。 ・地域との連携により、各学年で体験や交流活動の機会を学期に1回以上行い、豊かな心の充実を図る。児童アンケート「地域のひとと一緒に勉強することは楽しいですか」の達成率が80%以上を目指す。 ・総合的な学習の時間に、豊かな自然環境を活かした地域のGTを招いて、飼育栽培や勤労生産的な活動に取り組む、子どもの豊かな心を育てる。	教育相談 人権・同和教育 道徳教育	教育相談担当・特別支援コーディネーター 人権・同和教育担当 道徳主任	B	○特別の教科道徳は年間カリキュラムに沿って指導を行った。また、人権・同和教育では、おひさま朝会を中心に年間計画に沿って、担当者が学年の発達段階に応じた内容を工夫して行うことができた。 ○生活科や総合的な学習の時間において、児童主体の体験活動や交流活動を行った。児童のアンケートでは、「地域のひとと一緒に学習することは楽しいですか。」「に対して95%を超える達成率であることから、児童の意欲の高まりがみられる。 ○町探検や木育活動、米・そば作りなどの体験活動を通して、自分たち自身で厳木町のよさを見つけ、ふるさとの良さを感じながら地域に発信することができた。	○特別の教科道徳や日常生活の中で、問題点をとらえ適宜指導を行ってきた。しかし、学習した内容を実生活に反映させるためには継続的な指導が必要である。 今後もグループワークやソーシャルスキラーニングなどの積み重ねをしながら、相手を思いやる気持ちや人との関わり方を向上させていきたい。 ○児童に主体性を持たせながら、体験活動や地域の方々との交流活動を行うことは、豊かな心の充実をはかるために欠かすことができない。今後も積極的に取り組んでいきたい。

⑤地域人材の活用、地域での体験活動の推進。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分 掌(部)	担当者	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○開かれた学校づくり	保護者や地域の方々との学校行事や学校運営への参加促進	・学校ホームページや学校だよりを活用しながら、学校内の様子を広く地域に伝えていく。 ・生活科、総合的な学習の時間、外国語活動などを中心に、地域の人材を活用した授業を行う。	・こまめにホームページの更新を行ったり、地域の広報報に学校だよりコーナーを設置したりして、最新の情報を伝える。 ・地域の方を活用した授業を実施し、地域との連携を深める。 ・地域に発信・交流する場を設ける。	教務部	管理職	A	○ホームページや学校だより等を通して、また、TVの取材も積極的に受け、広く地域の皆さんの目に留まるように情報発信することができた。保護者も100%、地域とともに取り組む学校づくりができていると回答するなど、開かれた学校づくりに進めることができた。 ○地域の方をゲストティーチャーに迎えての授業はとてもよく行われ、地域との連携がしっかりとついていた。年度末には、サンキューフェスティバルも計画しているなど、地域の方々とのつながりが深まった。	○ホームページのリニューアルに伴い、更新されやすくなることを期待される。更新日を設定してその週のニュースを掲載するようにしたり、月末は行事予定を入れるよう時間の設定をしたししながら、情報発信に努めていく。 ○必要に応じて人材バンクを活用しながら、引き続き地域の方をゲストティーチャーに迎えながら、連携をとった教育活動の展開を工夫する。これまでのつながりを大事にしながら、地域みんなで子どもたちを育てることを意識していく。

⑥校内研究、教員研修の充実、勤務時間を意識した働き方改革。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○教師力の向上	校内研究を通した教職員の授業力の向上 職員研修を通した教師の指導力向上	・自信をもって授業をすることができるようになるよう、校内研究の充実を図る。 ・教職員が必要とする研修の場を計画的に進める。	・全員公開授業を通して、お互いの授業を見合い、意見交換をし合いながら授業力向上を目指す。 ・講師招聘をしたり、自分たちでの研修の機会を保障しながら、教育活動全般にわたる指導力向上をめざす。	教務部	管理職	A	○全員公開授業を行い、互いの授業力を見合い、意見交換をしなが、それぞれの授業力を高めることができた。授業をよりよくするための段階でよりよい授業を目指す姿勢が強く、その分、児童の実態に応じたより質の高い授業を行うことができた。 ○講師招聘をして研修を深める中で、自分たちの方向性の確認をしたり、課題を解決させたりすることができた。また、計画的なミニ研修に取り組むことで、指導力を向上させることができた。	○5・6年生の外国語科が教科としてスタートするにあたり、これまで積み上げ、研修を深めたことを生かし、活用しながら、授業を組み立て、進めていく。今年度中に作成するカリキュラムに沿って、児童の実態に合わせたアレンジを行ないながら、取り組んでいく。 ○状況に応じた研修を計画し、職員のニーズに合わせた研修・必要な研修を行いながら、指導力を高める。
		●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化の促進 勤務時間を意識した働き方改革	・勤務時間を意識し、能率、効率よく仕事をするために、教職員が協力し合う職場環境の充実を図る。 ・学校業務の見直しとし、教員が児童と向き合う時間を十分確保できるように工夫する。 ・全職員の残業時間を月60時間以内にする。	・勤務時間の管理、会議の効率化、行事の精選を図る。 ・定時退勤日等の設定と実施を図る。 ・教職員の働き方に関する意識改革を図る。 ・校内LAN等を利用した情報共有、効率化を図る。 ・SEI-Net及び校内LANを活用し、学校文書の作成・提出の効率化を進める。	教務部	管理職	B	○教職員の働き方改革に関する意識づけは徐々に浸透していている。計画の見直しや精選をして提案されることも多くなってきた。 ○勤務時間に関しては、なかなか時間内だけでは業務を終らせることは難しく、月60時間を超えた職員も毎月2〜3名はいる。行事の精選や時間の管理の工夫をやる改革を進めながら、定時退勤を目指した働き方をしていく必要がある。 ○校内LAN等を利用した情報共有、効率化を図ったり、SEI-Net及び校内LANを活用し、学校文書の作成・提出の効率化を進めたりすることはできたが、まだまだ、効率化を進める余地はある。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分 掌(部)	担当者	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○学校運営方針	学校教育目標及び学校経営ビジョンの周知	・児童、保護者、教職員アンケートにおいて認知度を80%以上にする。 ・ホームページをこまめに更新し、学校情報発信に努める。	・全校集会、学校行事、職員会議等で説明し、具体的な行動について、児童が実践できるように、各種集会で働きかける。 ・学校だよりや育友会総会、育友会評議員会等で具体的な取り組みの様子を発信する。 ・ホームページを活用して、情報発信を行う。	教務部	管理職	A	○100%の保護者が、学校のことについてよくわかると回答しており、運営方針やその具体的な活動について、きちんと伝えることができた。 ○「学校だより」や「学級だより」、そのほかにも「わくわく授業だより」等を通して、多方面から学校の様子を伝え、意識して学校情報発信を行なった。 ○2学期のホームページは充実していたものの、2学期末から3学期ははじめにシステマ移行に伴い、こまめに更新させることができなかった。	○学校だよりをはじめとした学校から発信する文書から、学校の方針、活動の様子をこまめに発信しながら、学校内外の皆さんに学校のことを理解していただける内容を工夫する。 ○ホームページ更新日には、確実に学校に関する情報発信を行う。また、ホームページ上での内容の充実を図る。
教育活動	●健康・体づくり	体力の向上 運動習慣の改善や定着化	・児童アンケート「元気に運動や遊びをしている」の達成率が95%以上を目指す。	・体育的行事や縦割り活動を通して、「運動大好きな子ども」を育てる。 ・授業で運動能力向上につながる動きや遊びを紹介し、休み時間にも取り組めるような環境を提供する。	保健部	保健部員	B	○達成目標が95%だったのに対して児童アンケートの結果、94.3%とおおむね達成できたが、昨年度に比べ、下がっている。 ○体力テストの結果については全学年を通じてAは40%弱で昨年度と比較して大きな変化はなかった。 ○体育大会種目や持久走大会、縦割り大会の練習を朝の時間や昼休みを利用して積極的に行ったことで、児童の運動に対する興味・関心が高まった。	○今年度同様、授業時間外でも児童の体力向上に関する関心・意欲を高めるような教材・教具、場の設定の工夫を行う。 ○体力テストの結果を高めるために事前に体育の授業等で運動能力向上につながる動きや遊びを紹介し、子どもが動きを身に付けたり、意欲的に休み時間にも取り組めたりするようにする。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

学校教育目標「豊かな心を培い、夢に向かって、主体的・創造的に活動する子どもの育成」の具現化に向けて、特活部、生徒指導部、保健部の三部会を中心に、以下の①～⑥を重点において取り組んできた。
○重点目標①主体的に自分の考えを形成し、表現する力を育むための授業の工夫については、外国語活動において、言語活動の充実により、児童が自分の本当の思いを積極的に伝え合おうとする姿が育ってきた。継続した指導が必要である。また、これまでに続き、児童司会を行い、主体的に学び合う姿勢の確立が図られている。このスタリルは、今後も続けていきたい。
○重点目標②子どもたちの学習習慣の確立を図ることについては、家庭学習の習慣化を図り、中身の濃い自主学習の仕方を提示・指導したことで、学び方を身に付けさせることができた。また、基本的な生活習慣を身に付け、落ち着いた生活を送ることが学習への積極的な取り組みにつながり、学習習慣の確立へと向かわせることができた。
○重点目標③子どもたちの考えが生かせる場面を設定し、主体的・創造的に活動できる力を育てることについては、学校行事を実行委員会形式で行なったことにより、その力を育成することができた。また、児童会活動では上学年だけではなく、中学年から活動の中核を担う機会を得たことで、学年に応じて主体的・創造的に活動できる力を育てることができた。その結果、自分たちで考え、判断、行動できるようになってきた。
○重点目標④心の教育（一人一人を大切にすること）の深化と充実については、年間を通して、毎月のおひさま朝会(人権教育)をはじめ様々な活動に取り組んできたため、縦割り活動でも下級生を慈しむ気持ち、上級生にあこがれる気持ちも育っている。また、児童アンケートでは「学校は楽しいですか90%」の達成率があり、学校生活に満足、概ね満足している児童の割合が高い。
○重点目標⑤地域人材の活用、地域での体験活動の推進については、開かれた学校として積極的に広く地域の方々を巻き込みながら、学校のみならず地域みんなを児童を育てるという意識をもって取り組んでいくことができた。今後も引き続き地域人材の活用をすることで多くの方々から刺激をもらい、児童の成長に役立てたい。
○重点目標⑥校内研究、教員研修の充実、勤務時間を意識した働き方改革については、業務の見直しを大胆に行いながら教育課程の編成を行い、時間をかけるところとそうでないところの減り減りを行い、スマートな教育活動が展開できるようにする。
来年度の取組としては、本年度の課題であった表現力を引き続きつづけていくために、校内研究を核とした学習指導に丁寧に取り組む。職員一丸となって、研修を深めたい。また、学力向上に向けては、課題文を読み取る力を付けるために課題文への「マーキング」を徹底させたり、活用力を要する課題に取り組ませたりすることによって、基礎基本の定着とともに応用力を身に付けさせていきたい。来年度も児童による実行委員会形式で行事を行い、児童の活躍の機会を保障し、児童の考えを生かして自主的活動につなげていきたい。主体的・創造的に活動する子どもの育成を目指し、授業や教育活動では伝統となりつつある児童司会をはじめとした様々な取り組みを展開していきたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目